

群 教 セ	G09 - 02
	平 28.261 集
	英語一中

伝えたいことを 正しい英語で表現できる生徒の育成

— 既習事項を活用して自己表現するための
学習ステップを通して —

特別研修員 佐藤 志帆

I 研究テーマ設定の理由

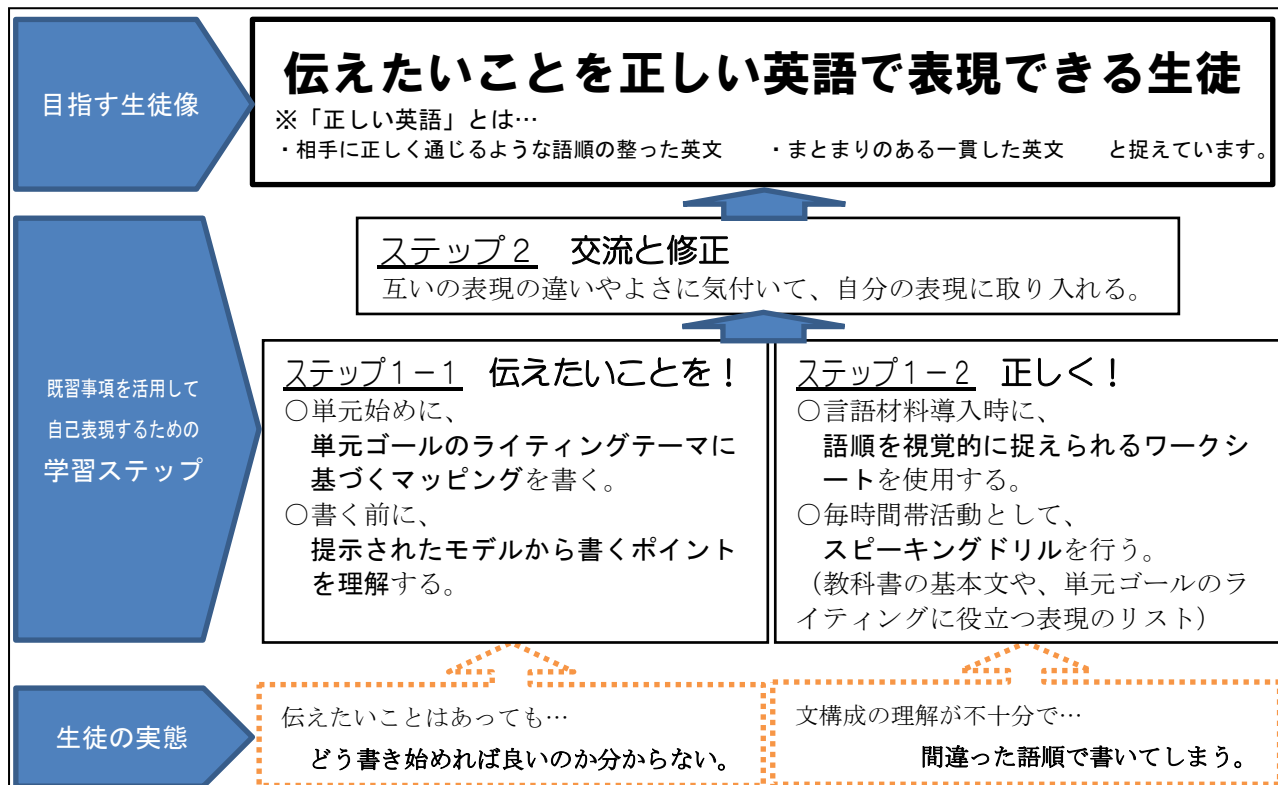
「はばたく群馬の指導プラン」には、県の外国語科の課題として「まとまりのある文を正しい英語で書くこと」とあり、「書くこと」の指導の充実が求められている。そして、中学校3年間で、解決に向けて伸ばしたい資質・能力として、「正しい綴りで英文を書く」「正しい語順で英文を書く」「身近な話題や自分の考えなどについてまとまりのある一貫した英文を書く」ことが挙げられている。

多くの生徒は、学習した文法事項に関する知識を用いて、教師の発問に答えながら文章の概要を捉えることができる。しかし、表現することとなると、伝えたいことはあっても、どう書き始めれば良いのか分からない生徒が多く、基本文や教科書本文の表現を活用して伝えたいことを表現できる生徒は少ない。また、単語単位では表現ができるが、文単位となると構成の仕方が分からず、完璧でなければならないという思いからか話せなかったり、間違った語順で書いたりする生徒が多い。これは、既習事項を活用して文を構成する機会が不足しているからだと考える。以上の実態から、伝えたいことを正しく表現できるようにする必要があると考える。そのためには、既習事項を用いて繰り返し表現させるとともに、表現してみたいと思わせる場面の設定やその機会の確保が大切であると考えている。

そこで、上記のとおりテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

単元を通して次の二つのステップを踏んで、伝えたいことを正しい英語で表現できるように、活動や場の設定をする。

(1) ステップ1-1 伝えたいことを書くための準備

○単元ゴールのライティングテーマに基づくマッピング

「職場体験前の自己PRカード」「ALTへのホームステイのアドバイス」「ALTへの旅行に際する交通手段のおすすめ文」など、既習の文法事項を用いて書く意欲や必要感が高まるような活動を単元末に設定する。そして、単元の始めにマッピングの手法を用いて、書く内容を広げたり整理したりする。その際、主述の関係、書く順序についても考えることで、つながりやまとまりのある文章を書けるようにする。

○モデル提示による書くポイントの理解

「どう書き始めたらよいか分からない」という生徒のためにモデルを示す。その際、良いモデルと悪いモデルを示し、そのよさや違いに生徒自身が気づき、理解して書き始められるようにする。

(2) ステップ1-2 正しく書くための反復練習

○語順を視覚的に捉えられるワークシート

学習した基本文について、語を置き換えて自分の伝えたいことを表現できることは分かっているが、実際に書く段階になると手が止まってしまう生徒が多い。そこで、基本表現を練習する際に、どの文でもS+Vになっているといった構造が視覚的に分かるようなワークシートを使用する。

○スピーキングドリル（帯活動）

基本文や教科書中の重要表現、自己表現に使える表現を日本語と英語を対応させて一覧にまとめ、ペアで練習する。

(3) ステップ2 交流と修正

4人程度のグループで、互いの表現を読み合う。その際、自分と相手の書いたものの違いに視点を当てて線を引くことで、互いの表現のよさや違いに気づき、自分の表現に役立てられるようにする。そして、交流後に自分の表現を直し、伝えたいことがより明確な文章になるよう修正する。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- ステップ1-1において、マッピングを通して書く順序を考えておくことで、単にモデルの一部を置き換えて文章を書くだけでなく、自分の言いたいことを伝えようとする姿勢につながった。
- ステップ1-2においては、同じ構成の文を声に出したり、書いたりして繰り返すことで文の構造に慣れた。また、日本語との対比で英語表現を確認でき、更に、語の置き換えによって自分の伝えたいことが正しい英語で表現できることを体感できた。
- ステップ2では、小グループで、互いの表現を読み合い、そのよさを生かしながら、同じテーマで一つの作文を完成させた。より良い文章にするために、注意深く読み、そのよさを生かしながら、内容やつながりを考えて修正することができた。

2 課題

- 書く力を伸ばすには、同じことが言えるように話す力も伸ばさなければならない。自分の伝えたいことをスピーキングドリルの表現を生かして書くには、その内容や実施方法を再検討する必要がある。これまで、ペアで日本語と英語を対比して話す活動にとどまり、自分自身の伝えたいことを表現するまでには至らなかった。決まった言葉でなく、会話の中で、学習したことを生かして語や文を選択しながら話すといった活動が必要だと思われる。
- 書き出せない生徒への手立てを探ることができたが、まとまりのある文量になると、間違いが増えてしまう。相手に「正しく」伝わる表現にするために、ALTとも連携し、基本的な語順等の重要なポイントを押さえて指導する必要がある。

実践例

1 単元名 「Unit5 Universal Design」 (第2学年・2学期)

2 本単元について

本題材では、教育課題の一つである福祉の題材として、ユニバーサルデザインを取り上げている。ユニバーサルデザインを採用した身近な製品や施設の例について、接続詞 if, that, when, because を用いて表されており、無理なく用法を理解できると思われる。単元末には、「300 km離れたところへ旅行する場合、電車と自家用車のどちらの交通手段が良いか」という話題について理由を添えてまとめ、意見交換する活動がある。いくつかの理由を順序立てて並べ、接続詞を用いてまとめると、説得力のある文章を書くことができると考えられる。そこで、「名古屋への旅行を考えている ALT が電車と自家用車のどちらで行こうか迷っている」と提示し、どちらの交通手段で行くのが良いか、おすすめ文を書くという活動を行った。そして、それぞれが書いたおすすめ文のよさを生かして、小グループで一つのおすすめ文を作り、ALT に提案すると設定した。生徒が、身近な話題について条件なども加えながら自分の意見を理由も添えて述べることができるようになることをねらいとしている。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	接続詞[if, I think (that) , when, because]や序数詞を用いて、身近な話題（名古屋への旅行を考えている ALT に電車と自家用車のどちらの交通手段をすすめるか）について自分の意見やその理由を正しい英語で書くことができる。	
評価 規 準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	教科書内容を読み取ろうとしている。 身近な話題について、自分の考えを積極的に述べ、伝えようとしている。
	外国語の表現の能力	身近な話題について、自分の考えとその理由を正しい英語で書くことができる。
	外国語の理解の能力	教科書内容の概要を理解することができる。
	言語や文化についての知識・理解	接続詞の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	・Unitの構成や最終目標を知り、新出単語、連語の発音を確認する。
課題追究	第2～9時	・接続詞[if, I think (that) , when, because]の形・意味・用法を理解する。 ・教科書内容を読み取る。
まとめ	第10時	・ALTが名古屋へ旅行する場合、電車と自家用車のどちらの交通手段で行くのが良いか、理由などを添えておすすめ文を書く。
	第11時	・書いた文章を小グループ内で読み合い、それぞれのよさを生かして、小グループで一つのおすすめ文を作り、ALTに提案する。その後、自分の表現を修正する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全11時間計画の第10時に当たり、ALTへ電車か自家用車のどちらかの交通手段が良いかをすすめる文を書くことになる。「既習事項を活用して自己表現するための学習ステップ」に沿って、伝えたいことを正しい英語で表現できるようにすることが大切である。そこで、以下のように手立てを具体化した。なお、ステップ1は本時に、ステップ2は次時の活動に関わるステップになる。

(1)ステップ1ー1 ALTへのおすすめ文で伝えたいことを書く準備

○単元ゴールのライティングテーマに基づくマッピング

広げたり整理したりして表現したい内容を確認する。また、表現したい順序を整理する。

○モデル提示による書くポイントの理解

ステップ1で練習した既習事項を用いて書いたモデル文を2種類（接続詞や序数詞を用いたものと、文を羅列したもの）提示し、よさや違いを確認する。周囲と話し合いながら理解することで、より確実に接続詞や助数詞について確認できる。

(2)ステップ1-2 正しく書くための反復練習

○スピーキングドリル

本時でおすすめ文を書く際に役に立つ表現を中心に練習する。そうすることで、文章を書くことへの意識付けを図ることができる。

(3)ステップ2 交流と修正

同じ交通手段を支持する生徒3, 4人でグループを作り、相談しながらALTへのおすすめ文をグループで作る。また、読み合う際は、互いの文をじっくり読めるように人数分のコピーをする。線を引きながら読むことで、互いのよさや違いが分かり、自分の表現を修正する際に役立てることができる。

4 授業の実際

前時までには4つの接続詞を学習した。また、本時の活動への見通しを持って、ALTへおすすめ文を書くために、電車や車で旅行する上での長所や短所を確認した。その後、内容をふくらませ、整理するためにマッピングをしたり、実際に接続詞を使っておすすめ文に活用できそうな文を書きためたりしてきた。

本時は、ALTへ説得力やつながりのあるおすすめ文を書くことをめあてとした。

めあて ケイティに、電車か車のより良い交通手段について、説得力やつながりのあるおすすめ文を書こう

(1)ステップ1-1 ALTへのおすすめ文を書く準備

○単元ゴールのライティングテーマに基づくマッピング

「電車」または「車」から始め、その利点やそれを支持する理由となることをマッピングしていった(図1)。必要に応じて、英語でメモを書いたり、理由に順番を付けたりした。また、ifやwhenも使えるように、「もし」や「いつ」といった条件も書くように伝えた。

○モデル提示による書くポイントの理解

生徒が知っている先生たちが書いたと仮定して、2つのモデル(文を羅列したモデル1と、接続詞や序数詞を用いたモデル2)を提示し、興味を持って読み比べられるようにした(図2)。

《Let's try mapping!》

モデル1

電車での旅を気に入る！
You will like to travel by train. Trains usually arrive on time. You may waste time in a traffic jam in a car. And you can enjoy talking with your friends. And chances of a traffic accident are low. So you will like to travel by train.

モデル2

I think you will like to travel by train because trains usually arrive on time. If you use a car, you may waste time in a traffic jam. I have two more reasons. First, you can enjoy talking with your friends. If you travel by car, drivers always have to be careful about driving. Second, chances of a traffic accident are low. When you are sleepy, you can sleep in the train. So, I think you will like to travel by train.

図1 マッピング

図2 2つのモデル

(2)ステップ1-2 正しく書くための反復練習

ペアになり、1分間で、片方が文の番号を、もう片方がその文を言い、スピーキングドリルの中のおすすめ文に使える表現を順序良く練習した(図3)。

	English	Japanese
3	If it's crowded, you have to stand in the train.	もし混んでいたら、あなたは電車の中で立ってなければなりません。
12	I think (that) Katie will like to travel by car.	私はケイティは車で旅行することを気に入るだろうと思います。
15	When you have a seat, you can sleep in the train.	あなたは座れるときは、電車の中で寝ていられます。
25	I think (that) Katie will like to travel by car because we don't have to leave on time.	私は時間通りに出発しなくてもよいので、ケイティは車で旅行することを気に入るだろうと思います。

図3 スピーキングドリルの一例

書く段階で、英語の苦手な生徒には、穴を埋めて完成させられるヒントシートを与え、手掛かりになるようにした(次項図4)。その後、同じ交通手段を支持する生徒3, 4人でグループを作り、相談しながら書けるようにした。I think (that)やbecauseの他に、ifやwhenも使うように促した(次項図5)。

《ヒント2》穴埋めができるとおすすめ文が完成します！このワークシートに書き込んで提出しましょう。

わたしはあなたに電車・車で旅行することを気に入ると思ふ。なぜなら、だから、

I think that you will like to travel by () because ()

もし、なら、

If (), ()

図4 ヒントシート（一部拡大）

《Let's write!》

I think you will like to travel by train because you may waste time in a traffic jam.
I have two more reasons.
First, when you are sleepy, you can sleep in the train.
Second, if you use a car, you have to find a car park.
But, when you use trains, you don't have to find a car park.
So I think you will like to travel by train.

図5 生徒の作文

(3) ステップ2 交流と修正

グループメンバーの表現から、互いの要素や適切に if や when を使っている文を生かし、協力しておすすめ文を一つにまとめて書いた(図6)。発表後は、ALT にどちらの交通手段を選ぶか決めてもらった。

I think that the train is your favorite because you can see great scenery. I have more reasons.
First, you can sleep if you are tired.
Second, you can go to a restroom always when you get a stomachache
So I think that the train is your favorite.
Enjoy your travel!

I think that you will like to travel by train because trains usually arrive on time.
When you have a seat, you can sleep in the train. If you travel by car, you can't sleep. And if you are free, you can see the view.

I think Katie will like to travel by train because you don't have to drive a car.
I have two more reasons.
First, Katie and I can eat Ekiben. It's a delicious and fun food.
Second, if you have traffic accident, your family will worry.
So I think you will like to travel by train.

《Recommendation to Katie from A, B, and C》

We think that the train is your favorite because trains usually arrive on time.
We have more reasons.
First, if you are free, you can see the view.
Second, when you are hungry, you can eat Ekiben. It's a delicious and fun food.
So we think that the train is your favorite.
Enjoy your travel!

- 各メンバーの表現を合わせて一つのおすすめ文を完成することができた。
- 他の班では出なかったような“train is your favorite”や“Enjoy your travel”といった表現を盛り込むことができ、そのグループの独自性が出た。

図6 3人グループ内の個人のおすすめ文（左）と完成させたおすすめ文（右）

5 考察

より良いおすすめ文を書くために、二つのモデルを提示し、興味を持って読み比べられるようにすることで、説得力やつながりのある文の特徴を捉えることができた。しかしながら、if や when といった接続詞の語法をより理解させるには、一方に使用上での間違いを含ませる等の工夫も必要だった。

マッピングは、スムーズな書き始めや文章に一貫性を持たせる上で有効だった。また、教師は容易に生徒の思考を理解でき、支援しやすくなった。しかし、マッピングした内容を英語で表現する力が不足している生徒も多い。接続詞はその後にS+Vが続き、「文」と「文」をつなぐという基本をくり返し確認していく必要がある。英語の苦手な生徒は、穴埋め形式のヒントシートがあることで、スピーキングドリルの反復練習が有効であった。

その後、生徒の実態を考慮して同じ交通手段を支持する生徒で小グループを作り、学び合いながら修正できるようにした。互いに質問し合える雰囲気があり、授業の終わりには75%がおすすめ文を完成することができた。学習カードへの振り返りから、80%以上が「伝えたいことを表現できた」と自己評価していた。if や when のどちらか、またはその両方を使って作文した生徒は50%を越えた。

次時では、互いの要素や、適切に接続詞を使っている文を生かして再度おすすめ文を書いた。最後に、決め手になった表現を添えてALTが選んだ交通手段を発表すると、書いた文に自信を持つことができた。

ステップを踏んで書く活動を行うことにより、伝えたいことを個人や集団で書けるようになってきた。このステップを継続することで、書くことへの抵抗感が軽減され、書く意欲が高まり、書くことを楽しむ生徒が増えることが期待できる。